

学籍番号：48523004	氏名：松葉彩乃
学部学科名：生命科学部分子生命化学科	
留学先学校名 カセサート大学	
<p>1. 留学の目的</p> <p>目的は2点ある。1点目は農大で専攻している化学について農大では取り扱わないような分野も含め、より深く学ぶことである。カセサート大学には高分子化学を専門的に学べる学科があり、以前から興味があった高分子化学分野に関して専門的な知識を身につけたいと考えた。2点目は国際的な教養を身に付けることである。過去に様々な国の人と関わった時の経験から、今後国際的に活躍するためには他国の状況や文化などを理解し、円滑にコミュニケーションをとる能力が重要であると実感した。この能力を身に付けるために半年間といった長期間の留学を通して留学先国の人と積極的に交流し、より深くその国のことを理解したいと考えた。</p> <p>2. 現地での生活について</p> <p>（住居、キャンパス、友達との交流、余暇の過ごし方など）</p> <p>寮は入居当初から壊れている部分が多く、修理をお願いしても実際に直してもらえるまでにかかなり時間がかかった。都会育ちの私にとって、虫が多く出る環境には最初なかなか慣れなかったが、生活していくうちに次第に慣れていった。</p> <p>キャンパスはとても広く、移動が大変であった。しかし、キャンパスと寮を結ぶ無料のシャトルバスがあり、寮の近くにはバイクタクシーも多く待機していたため、それらを利用すると移動は便利であった。その一方で運動不足になりがちだったため、できるだけ歩くよう心がけていた。歩いていると、リスやニワトリを見かけたり、バナナの花が咲いていたり、道が冠水していたりと、日本ではあまり見られない光景が多く、楽しかった。ただ、寮の周辺以外は夜になると非常に暗くなるため、安全面を考えて主にバスを利用していた。また、キャンパス内にはさまざまなお店があり便利であった。住んでいた寮の近くにもセブンイレブンやスーパーがあり、さらに電車の駅もあったため、電車を利用すれば栄えている地域へもそれほど時間をかけずに行くことができた。タイはデリバリーサービスも充実しているため、買い物に困ることはなかった。</p> <p>休日には、タイ語のクラスや寮、農大への短期留学を通して仲良くなった友人と出かけることが多かった。週に1日は必ず外出すると自分で決め、観光も積極的に行い、半年という限られた期間の中でできるだけ多くのことを学ぼうと努力した。</p> <p>授業では初めて学ぶ内容が多く、特に英語で行われる専門科目では専門用語が難しかった。そのため、授業についていき、より有意義な時間にするため、空いている時間を予習や復習に充てるよう心がけた。授業の合間には同じ学科の友人と</p>	

ゲームをして交流を深めた。生活の中で、2回ほどホームシックのような気持ちになったこともあったが、友人の存在に大きく助けられた。

食事は私の口に合い、タイ人の味覚に合わせた日本食のようなものもコンビニなどで購入できたため、日本食が特別恋しくなることはなかった。ただし、食物繊維が不足しがちだったため、寮の近くの店や学食でフルーツやソムタム、カオクルックガピをよく食べていた。果物は種類が豊富で安く、甘くておいしいためおすすめである。私は食中毒にはならなかったが、周囲の日本人の中には、長時間冷蔵されていない場所に置かれていた食べ物を食べて体調を崩した人も複数いた。そのため、食事には十分注意する必要があると感じた。

### 3. 留学を通じて学んだこと

留学の目的であった化学について、より専門的な知識を身につけることができた。現地の授業は、日本と比べて学生が積極的に発言しながら進められ、プレゼンテーションや小テストがこまめに行われる授業スタイルであり、この学習方法は自分に合っていると感じた。初めての研究室活動が海外であったため不安もあったが、分からない点はその都度質問するよう心がけた。この経験を通して、状況に応じて行動する柔軟な対応力を身につけることができたと思う。

また、宗教についても大きな学びがあった。日本ではあまり関わる機会のないムスリムや仏教徒の人々と交流する中で、彼らの生活や価値観について理解が深まり、自分の視野が広がったと感じている。現地の人とはできるだけタイ語で話し、積極的に溶け込んで学ぼうと努めた。

長期間の滞在であったため、観光地だけでなく観光地ではない地域にも訪れることができた。その経験から、タイ人の物事の考え方や文化、そしてタイという国そのものへの理解がより深まった。日本とは異なる国民性を持つ人々と長い時間を共に過ごしたことで、自分自身の物事の考え方にも変化が生まれ、自己分析が進んだと感じている。また、将来どのようになりたいかについて考えるきっかけにもなった。

語学力についても、留学前より向上したと実感している。さらに、普段日本で生活しているだけでは出会うことのない多様な日本人とも出会うことができ、多くの刺激と学びを得ることができた。

### 4. 留学経験を今後どのように活かしていきたいか

留学を通じて大学院進学を目指すという進路が明確になったため、留学中に学んだことを活かしながら研究活動を進めていきたいと考えている。タイで新たに始めた研究を進める中で、その分野に対する興味が次第に深まり、今後も研究していくこ都が選択肢の一つとなった。また、異文化における人々の考え方への理解が深まり、国際的な視野を持って社会で活躍したいという思いが強くなった。日

本とは異なり、自分から積極的に行動しなければ物事が進まない場面が多かったが、せっかく留学に来ているのだから多くの経験をし、さまざまなことを吸収したいと考え、自発的に行動する姿勢が身についた。この留学経験で培った行動力や専門的な知識を、大学院での研究活動や将来の就職後に活かし、社会に貢献していきたいと考えている。